

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

（令和4年3月7日 午後2時50分）

●議長（佐藤武雄） 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の5、伊藤博美議員。

- 1 コロナ危機のなか基幹産業の農業を守る予算編成か
- 2 農業人材力強化総合支援事業

議席番号4番、伊藤博美議員。

◆4番（伊藤博美） 議席番号4番、伊藤博美でございます。新型コロナの流行に伴い、外食産業の低迷で、米価は大きく下落しております。政府は農家の声に押されて、20年度産のお米については、15万トンもの特別枠を設けて、長期保存する倉庫の費用を支援することとしました。しかし、非常に市場の方へ出回るのを、ただ遅らせただけであって、米価の下落を阻止することはできませんでした。私は、こうした米余りの問題の一番の問題は、ミニマムアクセス米の輸入にあると思っております。輸入を止めずに、農家に減反と転作を求めて、米の需給対策を取っているからであります。私はこのミニマムアクセス米の輸入中止を強く求めるものであります。町の見解をお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今回コロナの影響も含めて、米価がかなり下落したということでございまして、60キロ当たり2000円弱の単価が下がったというようなことでございます。これに関連して、町としてもできる限りの農家支援を、そしてまた、新たな年に向けての意欲を高めていただきたいということも含めて、それぞれ対応をさせていただいているところでございます。ご案内の今、輸入米が米価下落の要因であるというふうに、伊藤議員さんがおっしゃっております。私は、よくこのことは勉強しておりません。ただ、輸入米については、それなりの用途を持つての輸入米をやっているんじゃないかなと、ちょっと推測的に、今までの情報も含めて思うんですが、このことが直接その米価に影響しているのか、どうなのか、私はそこまでは承知はしておりませんので、この答えについては、これ以上の答弁はできません。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） ミニマムアクセス米については、信濃町の主産業でありますお米のことですから、ぜひ町長にも勉強していただきたいと思いますと思います。

次に、水田活用交付金事業の見直しについて、お伺いします。転作補助制度のことを指しますけれども、地域農業が崩壊する、あるいは耕作放棄地が増える、広がるという

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

ことで、農家に新たな不安が広がっております。水田交付金は、米以外の作物を作付けした場合、その作物や面積に応じて、農家に支払われる助成金のことでございますが、これを今後5年間、米を作らなかった水田は、この対象から外すんだというものであります。一方的な難題を押し付けているのではありませんか。転作が長期に渡り、あるいは固定化しており、米を作れる状態に、すぐに戻れる状態ではありません。こうした水田が各地に広がっています。交付金を断念するか、あるいは水田と畑の作物を連作するか、5年間で選択せよということ、迫っているのであります。政府に対しても町として、こうした中止の見直しについては、声を上げるべきではありませんか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 水田活用直接支払交付金の見直しということで、国の方からというか、資料もいただいております。湛水設備や用排水路等有しない農地は、交付対象外にするというものと、現場の課題を検討しつつ、今後5年間、令和4年から8年度まで、一度も水張り、水稻の作付けが行われない農地は、令和9年度以降、交付対象としないということが書いてございます。現場の課題を検証しつつということもありますので、まだ若干、国の方でも政策の調整等も行っているのかなとも思います。国では、関係者との意見交換会、交換等重ねているというようなことですので、今後の動向について注視をしていきたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 長年の米や農業政策を棚上げにしているわけですよね。長年に渡って減反を農家に押し付けてきたわけですから。これらを棚上げにして、難題を一方的に押し付けているものに他ならないと思うんですよ。農業つぶしがあからさまな水田活用交付金の見直しは中止すべきだと、そんな思いが私には強くあります。これは、私は断じて許すことはできないと思います。転作の面積に応じた作物への拡大加算、これはもう、これも終了しているんですよね。そうじゃありませんか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 制度は時々に見直し等が入りますので、そのようなこともあると思います。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） それともう一つ出てきているのが、これだけ減反を進めてきている中でも、今年の22年の米の生産については、昨年度よりも21万トンまだ減らせということをおっしゃっております。面積にしますと、5万ヘクタールということだそうですけど

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

も、面積からすると、町への影響がどのくらいになるのか、また、交付金についてはどのくらいになるのか、お示しいたきたいです。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 令和4年度につきまして、まだ確定している状況ではございません。数値的には、減額となることは間違いないかというふうに見込んでおります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 減額ということは、金額ということですか。そうすると面積は、あるいはまた、数量というものについてはまだわからないということですか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 換算面積とかは出ております。今現在、各農家のみなさんに営農計画書を配布したところでございます。16日までだったかと思うんですけども、回収の期限を設定してございます。また取りまとめる中で、進めていきたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） いずれにしても面積、それから収量共に、一段と減反の影響が、この信濃町にあるんだということは認識できました。さて、新たな交付金ということになりますと、これ実は21年度産の、今年度の予算については、政府は確保していると思うんですよ。確保している、そうじゃありませんか。減反についての確保はしておりますよね。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 令和3年ということによろしいんですか。令和3年度については確定していると。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 国は交付金については、予算内と同じものしか出してきていないと思うんですよ。国の予算で見ますと、全く同じ予算です。ということは、新たにこれから減反していくものについては、予算はみていない。だから、国が出してくる交付金額

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

は一緒なんだけれども、新たな予算編成はしておりませんから、私、この新たに作り出される、要するに21万トンと5万ヘクタールについての予算は、どこから来るんだろうかということを知りたかったんですけども、それわかります。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） すみません。ちょっとそのところは把握してございません。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） これは、政府が言っているのは、要するに、前年度と同じ予算は確保したと、ただ新しくなってくる減反については、まったく確保していないと言っているんですよ。どういうふうにするんだと言ったら、各種の補助金を取り下げていく、少なくしていく、そのお金をそちらに回すというのが、政府の考え方なんですね。仮に複数年契約の場合ですけれども、新規の契約はもちろん配布はしませんけれども、1万2000円分を6000円にするとか、そうしたかたちで調整を図っていくというのが、政府の考え方だと思っています。仮に、これが減反が増えて畑にして麦や大豆、あるいはまたそば等にしても、価格については非常に不安定な面があります。現在でもそうですけれども、交付金なしでは営農は成り立たないというのが現実だと思います。これによって、ますます耕作放棄地が増えるのではありませんか。私、畜産農家の皆さん方のこともちょっと心配しているんですけども、多年生の牧草を作っていると思うんですが、多年生牧草の面積、これ、どのぐらいかわかりますか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 田作だと申しますか、多年生の牧草の生産というのはありません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） これは多年生の牧草を、示されているのは、毎年種をまいた所については3万5000円は補助しますと。種をまかないで、ただ刈り取るだけであるならば、今まで3万5000円だったのが、今度は1万円しか出しませんよというのが、これが政府の方針なんですね。ここでも畜産農家の皆さん方は、大きな影響が出てくると思います。こうした中において、営業が成り立たず、耕作放棄地がますます増えていくという心配の声がある中で、減反に向けての町としての新しい事業と展開というものは考えておられますか。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 昨年と言うか、令和3年にも、そばのブランド化というようにも事業として行っております。そういうことも展開しながら、進めてまいりたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） そばのブランド化だけでは、とても追いつかないのではと思っております。水田リノベーション事業というのがあるんですが、この事業そのものは終了しているともみていいのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 新市場開拓に向けた水田リノベーション事業ということで、国の方から令和3年12月に資料が来ております。この事業の内容でございますが、新型コロナウイルス感染症の拡大等によりまして、需要の構造が変化する中、水田農業を活性化させていくためには、コロナ禍でも堅調な米輸出を始め加工業務用など、今後成長が見込まれる新事業に対応していくことが必要というような内容でございます。国内外の新たな需要に対応するために、産地と需要者の結びつきを強化し、業者の連携に基づいた実需者ニーズに応じた米、それから高収益作物の生産及び、需要の更なる創生拡大に向けた加工品の製造等推進ということになってございます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 事業継続であればよろしいんですが、この水田リノベーション事業ということで、信濃町の農家のみなさん方の受け止め方と言いますか、どのように農家のみなさんは受け止めているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） この事業について反響と言いますか、お声というのは直接聞いてございません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 事業は続けているのであれば、また期待はしていきたいなと思えます。

次に農業経営確立対策について、伺います。この問題、同僚議員から、みどり戦略と

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

ということで一応ふれられておりました。ダブらないようにはしたいなと思っております。これは農林省関係で、今年予算の中で大きな目玉の一つになっていると聞いております。通称、みどり戦略と呼ばれておりますが、みどりの食料システム戦略というのが、正式名なわけでありましてけれども、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けて組まれてきているわけでありまして。同僚議員も申しておりましたが、化学肥料、あるいは農薬等の使用は半減するんだということを目指して、主として技術的な革新を行っていくと受け取っております。新たに、持続的な食料構築に向けた地域を支援するというのも、このみどり食料システム推進交付金の新たな作り手ではないかなと思っております。すでにこれは、これからのことでもありますから、国が2017年を基準にしております。2万3000ヘクタールを基準にして、30年には3倍の6万7000ヘクタールを、また2050年には50倍の100万ヘクタールを目指しているんだということでした。これも逐一また、これからの中で取り組んでいきたいし、問題にもしていきたいなと思っております。すでに行われている事業の一つに、環境保全型農業直接支払交付金というのがあるわけですが、私は、このニーズは決して低くはなくて高まっていくんじゃないかなと思うんですが、町の受け止め方はいかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 環境保全型ということで、現在、あきたこまちの特別栽培米等、実施しているところです。これについては、堆肥を用いた栽培、それから農薬使用を50パーセント減というようなことでやっているものです。こちらについては、学校給食にも利用いただいているところでございまして、評判も良いというふうに思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 今年度予算を見ますと、町の方は、昨年よりは、約16万ほど少なく出ております。約80万円ほどを計上しておりますけれども、少なくなった理由については、どんな理由がありますか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） こちらの予算が減った理由でございまして、取り組みの面積が減ってしまったというようなものでございます。これについては、堆肥の施用というようなことで、高齢化に伴ったことが、主な原因かというふうに分析をしているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

◆4番（伊藤博美） 面積の減だということですが、これは復活できる可能性はあるというふうにもみてもよろしいですか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 原因が高齢化であるとか、労働力の全体の量が減ってしまっているとか、そういうことだと思います。それを補うような形で、例えばスマート農業であるとか、IOTの活用とかそういう部分が進んでいけば、上向いていくことも可能なのではないかと考えます。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 積極的に取り入れていただきたいなと思っています。

次に、農業再生推進対策事業について伺います。事業のうち、そばのブランド化事業について、お伺いします。この事業は地方創生推進交付金を活用し、3年計画で始められてきました。昨年が初年度の事業だったんですが、その実態はどうだったのか、作付けの面積、あるいは収穫量、価格というものがわかれば、示していただきたいと思えます。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） そばの作付面積でございますが、田畑と言いますか、田作の部分、それから畑地の部分合わせて210ヘクタールでございました。そのうち転作田が149ヘクタールほどになります。価格につきましては、それぞれと申しますか、ございますので、おいくらというような数字はちょっと持ち合わせてございません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 収穫量は今、ちょっと出してこなかったんですけども、この数字というものは、当初から予定していた想定内であったのか、想定外であったのか、どのように評価しておりますか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 当初の計画は204ヘクタールでしたので、作付けの面積から申しますと210ヘクタールということで、当初の目的の面積自体は、達成できたのかなと考えています。以上です。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） この事業は、そばの振興と同時にブランド化を図るんだということも述べています。そういった目標があるわけですね。また、担い手の確保、あるいはまた、荒廃農地を防ぐという目的もあります。さらに、他の品目にもつながるということで、産業振興を目指すんだということも謳われていたと思います。そこで、その予算を見てみますと、昨年度よりも、およそ80万円あまりが減少をしています。これで本年度のこれからの目標の事業というものが達成できるのかどうなのか、なぜ予算が減ったのかについても、説明をお願いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 予算額自体は、令和3年が430万円、令和4年が354万1000円というようなことで、80万円ほど減ってございます。事業の内容は品質、それから収量の向上事業というようなものも計画してございます。具体的にはIoTの活用であるとか、土壌診断など行っていく予定です。事業費につきましては、事業に必要な金額を精査したもので、事業費の中で達成の目標が変わるというようなことはございません。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 予算が減っても事業が達成できるんだということでやっていただければ、さらに進んだ形になるのかなと思っております。

次に、農業人材力強化支援事業について伺います。いわゆる、新規就農者への支援になるわけですが、予算からみますと今年は、一人分の予算とみているんですが、これはもう決まった方がいるとみていいですか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） これ、5年の事業となっていてございまして、1名の方、今年が最終年度を予定しているところでございます。決まった方です。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） ぜひ、決まった方がいるということでしたので、信濃町の産業振興のために、農業の振興のために、頑張ってくださいなと思います。信濃町は、ご承知のとおり、半年間、雪に覆われるわけですが、農作業というものは実質不可能だというふうに見ております。気候、気象条件が厳しい中で、今年のように、災害級の大雪に見舞われた時は、なおさら農作業も遅れるとみております。こうした中で、一律の交付

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

金のみで農業に意欲と就業後の定着を図れということは、極めて困難な状況なんじゃないかなとみております。ましてや慣れない所で、一定期間の中で所得確保を目指すといっても非常に困難かなと思います。そこで私、二つの点で提案をしたいと思うんですが、一点は新規就農者への資金ですね。これは、特定財源で、県の支援事業なわけですが、この県の支援事業の補助金に、今言った気象条件などの厳しい状況を踏まえて、町独自の補助金というものを上乗せできないものかなと、いわゆる就農者を支援する、これを一つ検討していただきたいなと思っております。もう一点は、農業後継者の方ですが、親がやっていたから事業を引き継ぐんだということでおります。こうした方は、土地ですとか、あるいは設備、施設こういったものなどは、そのまま引き継ぎますけれども、引き継ぐにあたっては、今の仕事を辞めて引き継ぐ人もいれば、あるいは親から、早くから手伝って引き継ぐ方もおります。どちらも後継者になると思うんですけども、これらの方たちは、新規就農という形にはならないんでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） ちょっと後継者がイコール新規就農になるかどうかというところまでちょっと、今というか、ここで把握ができてなくて、申し訳ございません。ただ、国の制度等も、補助制度と支援制度がございますので、その辺のものを最大限活用する、できるようなかたちで支援等を考えていきたいというふうには思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 新規就農となると、まったく違った仕事で、違った地域から来て、それで農業に就農するんだというふうに、どうしても頭の中では考えてしまうんですが、ただ昨今の高齢化の時代、あるいは担い手不足ということを考えれば、自分の親から引き継ぐという方も、新規就農というような呼び名が良いのかどうかわかりませんよ。わかりませんがもしかし、後継者にはなるわけですよ。その農業の担い手としての後継者にはなるんだということですから、こうした方々にも一定の期間、新規就農者だけではなくて、新たに来た人たちについてはもちろん町として、独自の支援をしていただきたいと思っておりますけれども、こうした後継者の人たちの一定期間の支援というものをすべきではないかと考えております。これは、高齢化に伴って、担い手不足の対象にもつながる一つの手ではないかなと思います。すぐには申しませんが、基本的な町の考え方をちょっとわかるようでしたら、示していただきたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 農業の後継者という点に絞ってのお話だと思います。私ども、幅広く、例えば、商工会などでの懇談会に行きますと、商工業における後継者の皆様方も、

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

何か手立てをしてくれないかと、このようなお話を聞いているわけでございます。いろいろな状況をさらに含めて、公な立場として、どういうことができるかというようなことは、検討はする必要も出てきている状況かなと思いますが、そのことによって、本当に長く続くかどうかという心配も出てくるわけでありまして。ですから今、農業に限っての話をさせていただければ、いかに儲かる農業にしていくかということだと思っております。どうしても、米を主体にして長い間、この信濃町は、私もそうだったんですが、米作りをしてやってきているということですが、これからの時代の中で、もうちょっと先を見据えて、少し苦勞してもそれなりに似合った収入に合う、そういう農業は何かというようなことも含めて、そういった分野も方向性として考えて、なんと申しますか、見据えて取り組むということも極めて大事じゃないかなと思います。そういった面では、提案のありました分野については、しっかりと受け止めさせていただきたいと思っております。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 町長がおっしゃいましたけれども、理想と現実はなかなかむずかしいものなんですよ。私今言ったのは、同じ金額を支援するとかということじゃないんですよ。県から出ている、それはそれとして、ただそこに、多少なりともちょっと上積みしたかたちでの支援策というものを考えていっていただきたいなというふうに提案したわけでありまして。これまでもそうだったように、これからも高齢化と担い手不足というのは、ずっとついてまわるんだろうなと思っております。そうはいつても、コロナ禍の中ですから、最近の報道を見ますと、田舎で暮らしてみたいだとか、考えたりしているという方もいるというような報道もされております。そういう意味では、今が、担い手や、あるいは高齢者不足解消に向けた一つのチャンスではないかと捉えるべきじゃないかなと。町独自の政策、施策を推進していくべきだと思います。

農福連携について、ちょっとふれたいと思います。昨年度あった予算が、今年はありませんでした。福祉事業と思っておりますけれども、農業施策としての役割は終了したんだと捉えるのか、課題はなかったのか、この辺について、伺いたします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 令和4年の予算については、予算計上等はございません。今年度、令和3年度で、県の元気づくり支援金を活用させていただく中で、2月2日の日に、ちょっとコロナの関係があって、オンラインだったんですけども、農福連携のフォーラムを開催してございます。その状況は後日、ネットで配信したりしまして、全国から参加された参加者がいらっしゃいました。来年度につきましては、生産者、それから事業者の相対の中で、生産者の声を聞く中で、事業所につなげるような調整等を行っていかねばと思っております。課題としましては、就業時間がどうしても早朝であるとか、そういう調整がむずかしいというような、そのような課題も残ったところですので、以上です。

令和4年第420回信濃町議会定例会3月会議会議録（3日目）

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 農福連携、それぞれの皆様方のむずかしい面もあるんだろうと思いますけれども、障害者の皆様方にとってみたら、働く場としての期待は非常に大きいと思いますし、人とのつながりや、あるいはまた環境の変化の中で、成長できる場の提供は異議があるというふうに思っております。今後のことを、しっかりと課題を克服する中でつなげていっていただきたいなと思っております。ただ受け入れる生産者の方ですが、そちらの方も、あまり手をかけていないということは言っていましたけれども、そうは言ってもやはり、働きに来ていただいているんですから、安全面を考えたり、衛生面を考えたりという点では、非常に気を使っているんだろうなというふうには聞いておりました。今後とも、この農福連携の施策が大きくなっていくことを願っております。

最後に、新規事業ということで、伝統野菜振興事業というものがあります。これについて伺います。県の元気づくり支援金事業が予算の8割を占めているわけですが、地域経済の活性化を目的とするとありました。具体的な事業内容について、示していただきたいと思えます。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） 令和4年の事業内容ですけれども、今年度、からごしょう、冬ささが伝統野菜として県の認定を受けたところでございます。すでに、認定をされておりますぼたごしょうを含めまして、伝統野菜フォーラム等を開催して、伝統野菜の理解を深めて、料理講習会、種の配布などによって、町民の皆様幅広くご理解等をいただければというふうに考えているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 伝統野菜ということですから、信濃町に何かとつながりのある野菜というふうに思っておりますけれども、新しい事業でありますので、農業の活性化のためにもこの事業は、少しでも前進できるように、ぜひ一つ行政の面からも大きな支援をしていただけたらなと思えます。それをもちまして、私の一般質問を終了いたします。

●議長（佐藤武雄） 以上で、伊藤博美議員の一般質問を終わります。お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会としたいと思います。これにご異議ございませんか。（なしの声）ご異議なしと認めます。よって、本日はこれで延会とすることに決定いたしました。念のため申し上げます。8日の本会議、一般質問は、午前9時45分からの開会となりますので、時間までにご出席ください。ご苦勞様でした。

（終了 午後3時30分）